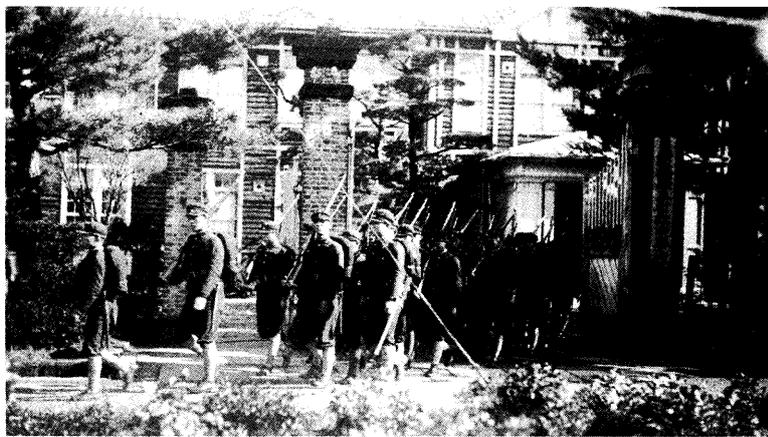


臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報

平成20年(2008)大会号



写真提供 木村寿一氏(高14回)
昭和9年9月10日、高崎の演習へ
出発する松城健児と校門。
撮影は昭和4年卒業(旧中14回)の
故木村幸一氏である。尚、この校門
は3月7日付けで国登録有形文化財
に指定された。



新潟県立村松高等学校東京同窓会

第51回定期大会に臨んで

大会実行委員長 渡邊 八郎 (高3回)

皇居の豊かな緑を目にできる会場に、第51回東京同窓会を開催できることを役員の皆様、実行委員一同と共に心より感謝致しております。

昨年の第50回記念大会には、新潟大学名誉教授佐藤峰雄様(高2卒)によるピアノ・レクチャーコンサートを共催させて頂き、皆様の絶大なる賛辞をいただきました。ここに大先輩のご好意に改めて感謝を申し上げます。

私がこの学校(旧制中学校)に入学したのは昭和20年4月でした。大東亜戦争も末期でしたが、こと、教練の時間は厳しいものでした。裏の「地藏山」へ往復駆け足の訓練は日常のこと、空腹を抑えてよく耐えてきました。また、隣の「赤山」は昼でも薄暗く殺気を帯びて？

いて、時として上級生からの肅正・制裁を受ける場であり、また男の子の雌雄を決する場でもありました。その反対側に存在する「臥龍が丘」は、唐紅の香を漂わし、何処からか吟詠が聞えてくるような雰囲気がありました。

この豪柔の山と丘に囲まれた村松高等学校は、我々に進取の生气と凌霄の気を与えてくれました。由緒ある校門・松の群れにいろいろな思いを抱き、時世時世、この同じ屋根を潜り塵の巷の甘酸を味わい、各界層に貢献されて来られた同窓生の皆様方と、一同に会してご歓談させていただけることは喜びに耐えられません。一本の絆のもと、これからも東京同窓会の発展のために皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京同窓会 第51回定期大会 プログラム (敬称略)

日時 平成20年6月21日(土) 正午開会 会場 KKRホテル東京 10F「瑞宝の間」

第一部 総会 一司会・進行一 郡司 正大(高16回)、森田 勝美(高16回)

- 1 開会のことば・・・・・・・・・・実行委員長 渡邊 八郎(高3回)
- 2 東京同窓会長あいさつ・・・・・・・・・・会長 鈴木 多喜男(高4回)
- 3 村松高等学校同窓会長あいさつ・・・・・・・・・・会長 相田 豊(高9回)
- 4 村松高等学校校長あいさつ・・・・・・・・・・校長 小島 正芳
- 5 村松高校五泉会代表あいさつ・・・・・・・・・・代表 坂上 洋司(高5回)
- 6 議 事
 - (1) 平成19年度委員会活動報告
 - ① 総務委員会・・・・・・・・・・委員長 澤出 起允(高6回)
 - ② 財務委員会・・・・・・・・・・委員長 塚田 勝(高8回)
 - ◎会計監査報告・・・・・・・・・・監 事 佐久間 英輔(高6回)
 - ③ 広報委員会・・・・・・・・・・委員長 大橋 貞夫(高10回)
 - (2) 役員改選
 - ① 次期会長改選
 - ② 新会長あいさつ
- 7 閉会のことば・・・・・・・・・・副会長 斉藤 和男(中33回)

第二部 講演会

演題・『江戸の歴史を歩く』・・・・・・・・・・「江戸を歩く会」会長 雲村 俊愷(高5回)

第三部 懇親会 一司会・進行一 郡司 正大(高16回)、森田 勝美(高16回)

- 1 開会のことば・・・・・・・・・・司会者
- 2 乾 杯・・・・・・・・・・副会長 伊藤 勇五(中33回)
- 3 お楽しみ抽選会・・・・・・・・・・山田 俊治(高14回)・他
- 4 校歌・応援歌・・・・・・・・・・参加者全員
- 5 手締め・・・・・・・・・・副会長 杵淵 政海(高2回)
- 6 閉会のことば・お開き・・・・・・・・・・司会者



平成19年度 東京同窓会の動き

- 4月21日(土) 幹事会
13:30 新潟県人会館
・大会案内状発送作業368通
・平成19年度大会実施細目
・会報43号の表紙を決定
- 5月10日(木) 第一印刷へ平成19年大会号
No. 43号の原稿送付
- 5月26日(土) 実行委員会
14:00 KKR ホテル東京
ホテル側と大会細目の打ち合わせ
- 6月16日(土) 東京同窓会50回大会
12:00 KKR ホテル東京
出席者総数127人
会報配布数140通
- 7月14日(土) 幹事会
13:30 新潟県人会館
・会報発送233通、
・50回記念大会総括
・その他
- 9月22日(土) 編集会議 (会報44号)
13:00 新潟県人会館
平成20年新春号の編集方針
- 9月22日(土) 幹事会
14:00 新潟県人会館
・今後の活動について
・51回大会実行委員会の件

- 10月27日(土) 編集会議 (会報44号)
14:00 新潟県人会館
- 11月16日(金) 会報44号原稿を第一印刷へ
- 12月22日(土) 幹事会
14:00 新潟県人会館
会報発送348通 (メール便)
幹事会・51回大会の件
17:00より忘年会 (吉池にて)
- 2008年
- 2月23日(土) 編集会議 (会報45号)
13:00 新潟県人会館3A
平成20年大会号の編集方針
- 2月23日(土) 総務委員会
14:10 新潟県人会館3A
・新規会員増について
・大会準備委員会の日程について
- 3月22日(土) 編集会議 (会報45号)
13:00 新潟県人会館3B
・編集方針、原稿の確認等
・その他
- 3月22日(土) 総務委員会
14:00 新潟県人会館3B
・第51回大会プログラムの件
・新規会員加入依頼書送付の件

雲村俊慥氏 (高5回) プロフィール

新潟県五泉市(村松)に生まれる。
光文社で週刊「女性自身」月間「宝石」創刊・
編集責任者として各種文芸書を世におくる。
在籍中から『江戸を歩く会』会長となり、
20年間、足で歴史を学び続ける。
定年後「小説・仙壽院裕子―越後村松藩の維
新」で日本文芸家長編小説部門大賞を受賞。
以後、「元禄の豹・堀部安兵衛」「江戸・東
京歴史人物散歩」「江戸・東京散歩35選」「大
奥の美女は踊る」「豪華絵巻で楽しむ・大奥の
しきたり」と続々刊行中。
現在はNHKカルチャーセンターで『江戸史』
の講師として活躍している。



会報44号の発送作業



幹事会



ありがとうございました

①平成19年度・会費納入された方々（敬称略）

◎旧中の部（16名）

相田和平、五十嵐一郎、伊藤勇五、笠原健二郎、熊倉 悟
斉藤和男、千代国一、寺田徳隣、成海正弘、西山荘平
松尾 貢、宮本 昇、武藤三郎、矢部五郎、吉田正平
吉田公男

◎高校男子の部（117名）

青木敏和、朝倉克巳、畔田昭義、阿部 勇、安部 實
新井康夫、新井三郎、石川 滋、石黒四郎、石本芳雄
伊藤隆造、今井一義、今井貞夫、今井孝宏、今井英雄
大倉修吾、大橋貞夫、大橋秀雄、小黒正恒、笠原静夫
笠原大四郎、梶屋庄佑、加藤喜七、加藤清治、金子鶴男
金子健二、川合敏男、川上博満、川村莞爾、杵渕政海
木村寿一、菊田勝也、桐生光憲、熊倉富次、雲村俊造
倉田健五、郡司正大、剣持常泰、小池生夫、小日山芳栄
小出博三、小柳 実、近藤尚志、近藤洋輝、小鍛冶直昭
斉藤慶五、斉藤正義、坂上卓夫、篠川恒夫、佐々木秀三
佐々木秀和、佐藤栄治、佐藤 克、佐藤信三、佐藤 起
澤井 昭、澤出起允、下野文幹、新保 優、志佐 致
杉本芳男、杉山 喬、鈴木健司、鈴木多喜男、鈴木忠雄
鈴木輝雄、関塚 豪、関谷雄二、瀬倉 薫、瀬倉武志
高岡英治、高岡雄三、高地 彰、高山幹雄、塚田 勝
坪谷次郎、弦巻 功、弦巻 等、鶴巻旒三、辻川 登
中川善隆、中村雅臣、中山 健、二宮文三、根本俊夫
羽賀道信、長谷川吾一、長谷川五郎、長谷川洋夫
服部修治、羽下 力、林 敬直、堀 直昭、堀川俊郎
増田訓英、松尾正春、松田輝夫、間藤謙一、真島節朗
湊 久直、三室茂和、宮沢正由、武藤 寛、武藤正昭
村川恭平、村川五郎、村川忠司、目黒義二、八木又一郎
築取正道、山崎輝雄、山崎豊吉、山田俊治、山中 滋
吉井 清、吉井久夫、渡辺八郎

◆平成18年度分会費納入者名

伊藤勇五、武藤正昭

◆平成20年度分会費前納者名

新井三郎、高岡雄三

◎旧高女の部（10名）

石井洋子、大橋玉枝、小林早月、近藤昌子、佐藤 治
佐藤玲子、新保清子、鈴木節子、藤崎トヨ、前川れい子

◎高校女子の部（50名）

安達繁子、阿部ミサ子、芦川靖子、阿久津万左子
飯利 幸、五十嵐八端、五十畑キヨ、大野靖子
緒方康子、岡部ユキ、片柳ムツ、加藤久子、川村イク
神田正子、木村孝子、久我マキ、小島典子、斎藤英子
佐々木恵美、斉藤智恵子、佐藤凌子、佐藤八重
白石キヨ、鈴木則子、高尾桂子、高岡五百子
高浜つる子、田川百合子、出口テル、寺山征子
徳永道子、中島和子、中村エツ、治田レイ子、林 信子
深見洋子、星野孝子、升本久子、松本知子、真水道子
三宅紀子、宮腰ヨイ、三国弘子、向山律子、森川弘子
森田勝美、山路文子、山田羊歯子、山西愈佐子
横溝田鶴

平成19年度会費納入者数
男子=133名 女子=60名 合計=193名

②平成19年度・寄付された方々（敬称略）

◎男子の部（8名）金額=37,000円

20,000円 佐藤峰雄
4,000円 伊藤勇五
3,000円 藤田暉輔
2,000円 武藤三郎、山崎輝雄、小日山芳栄
佐々木秀三、中村雅臣

◎女子の部（4名）金額=9,000円

3,000円 大橋玉枝
2,000円 新保清子、緒方康子、横溝田鶴

◎同窓会本部より活動費助成30,000円

合計金額 76,000円

お願い

住所等を変更された場合、ご面倒でも速やかに事務局までご連絡をお願い申し上げます。

新潟県立村松高等学校

東京同窓会 事務局

〒201-0005 狛江市岩戸南 2-14-14

Tel & Fax 03-3488-2117

事務局長 石黒 四郎（高9回）

平成19年度会計収支決算書
(平成19年4月1日より平成20年3月31日)

新潟県立村松高等学校 東京同窓会

収入の部 (単位:円)		支出の部 (単位:円)	
特別会計		特別会計	
第50回大会収入 (No44既報)	1,072,000	第50回大会支出 (No44既報)	1,198,577
一般会計		一般会計	
1 19年度 会費	576,000	1 50回大会 補填	126,577
男子 133名 (1名前年度済)	396,000		
女子 60名	180,000	2 会議費	40,620
計 193名 (1名前年度済)		(幹事会・広報委員会)	
2 平成18年度分	6,000	3 会報発行関連費	351,670
男子 2名	6,000	NO43印刷代 (500部)	128,100
3 平成20年度分	6,000	会誌用封筒 (含印刷代)	16,275
男子 2名	6,000	発送費 (メール便・郵送)	21,040
4 平成19年度 寄付金	26,000	NO44印刷代 (500部)	128,100
会員男子 7名	17,000	会誌用封筒 (500部)	16,275
会員女子 4名	9,000	発送費 (メール便)	27,840
佐藤峰雄氏	20,000	発送費 郵送・宅配等	12,120
5 同窓会本部 (活動費助成)	30,000	発送用宛名シール	1,920
6 利子	1,599	4 通信費	52,080
		切手	26,670
		ハガキ	14,800
		コピー代	10,610
		6 年会費振込手数料	9,580
		現金書留・振込手数料	2,615
		7 対応費 (交際費)	50,000
		県人会賛助会費	10,000
		本部總會対応費 (参加4名)	40,000
		8 会員拡大用住所録作成 (業者)	27,804
		宛名シール印刷代 (業者)	9,200
		発送用封筒 (400枚)	3,696
		9 諸雑費 消耗品等	21,137
		封筒・ラベル・	6,304
		インク	8,833
		判子・スタンプ	6,000
19年度収入合計	665,599	19年度支出合計	694,979
平成18年度から繰越	1,041,932	平成20年度へ繰越	1,012,552
郵便貯金	986,753	郵便貯金	999,772
現金	55,179	現金	12,780
合 計	1,707,531	合 計	1,707,531

上記の通り報告致します。

平成20年5月3日

東京同窓会長 鈴木多喜男 ㊟

財務委員長 塚田 勝 ㊟

上記の決算書は監査の結果、適正と認めます。 平成20年5月3日 会計監事 佐久間英輔 ㊟



お便りの中から

順不同・敬称略

東京地区「懇親食事会」

鈴木 健司 (高4回)

元松高校長 吉川 益男 (新潟市)
この度は「臥龍が丘は緑なり」をご惠贈頂き誠にありがとうございました。

在職時に東京支部の会に出席させて頂いた時のことを思い浮かべながら読ませて頂きました。特に羽下勢栄氏の「こんな生き方もある」は私の知らなかったことでしたので興味深く読ませて頂きました。先人の思いが熱く胸に染みしました。

また、会誌より東京同窓会の大会が盛況であったことも察せられました。御盛会誠にありがとうございました。益々発展されることを念じております。

さて、いつも会誌をご惠贈にあずかっておりますが、退職して十年になりましたので、この辺でご放念頂きたいと思えます。長い間ご厚情を頂きましたことに心から感謝申し上げますと共に貴会が益々発展されることをお祈り申し上げます。

元松高校長 水荃 芳栄 (糸魚川市)

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます
さて 私義三月三十一日をもって県立糸魚川高校を定年退職いたしました

在職中は公私とも格別のご懇情を賜りまして浅学非才の小生も大過なく？職務を全うできましたこと深く御礼申し上げます

ご迷惑をおかけしたことも多々ありましたこととお詫び申し上げますとともに今後とも相変わりがせぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます

親しく拝眉の上御礼申し上げるべきところ略儀ながら書中をもってご挨拶申し上げます
謹白

佐藤 峰雄 (高2回) 新潟市

この度は立派な貴同窓会会報誌をご惠送頂き、すっかり恐縮して居ります。既に四十三号まで継続して発行されて居ります事を知り、貴重な歴史を刻まれて居られるお仕事に感じ入りました。

縦型ピアノでの演奏は、自分でも何を弾いているのか全く判らず、皆様方にご不快を与えたのではと反省して居ります。この度は本当にお世話様になりました。お蔭様で多くの友人と会うことが出来て大変有難かったです。

終わりに皆様方の益々のご多幸をお祈り申し上げます。

藤田 暉輔 (中30回) 五泉市村松

この度は

「臥龍が丘は緑なり」をご惠贈いただき

感謝に耐えません

東京の皆様のご健闘とご活躍をはるかに拝読いたしました。表紙の写真もすばらしく、また執筆者の皆様のご熱意には心から感動いたして居ります。

どうぞ皆様のご健康とご発展をお祈り致しますとともにご無沙汰お詫び申し上げます。

まずは御礼まで

我々の同期会は、今秋新潟県で地元幹事が開催します。「それはそれとして、ここ数年やっている東京のお花見会と、懇親お食事会を、今年もやりましょうよ」ということになり、平成20年4月10日に『懇親食事会』を虎ノ門の「レストラン立山」で実施いたしました。

新宿御苑の『お花見会』も平行実施を企画しましたが、「雨天」の天気予報のため中止となり、『懇親食事会』だけの催しとなりました。「レストラン立山」の懇親食事会には、昨年比2名プラスの出席予定者24名が全員、午後半ばにそろいました。

開会の挨拶で幹事役が「新宿御苑のお花見会がお日様に嫌われ、雨のため流されたのは、私の不徳の致すところですよ」と述べ、浜松市からご参加の松尾拓二氏が乾杯の音頭を取られ、懇親食事会の運びとなりました。

最近「後期高齢者」という言葉が話題となりましたが、私達は「既にそうなっている」か、「今年はそれになる」か、「来年にはそうなる」人達の集団です。

即ち、敗戦前後の歴史観・価値観・道徳観・教育制度の激変・激動を一緒に体験し、語り合った同士です。

このような、懇親会に共に参加出来るお互いの健康を素直に祝い、昔話に花が咲き、時間の経過を大変に早く感じました。印象に残った話題は、「3年後の母校の創立100周年祭行事」「その直前に我々の77歳の喜寿祝いがある」「まずは喜寿祝い行事までこの集いを続けよう」「来年はお日様に歓迎されて、良いお花見が出来ますように、人徳を積み上げましょう」etc.

午後6時頃に中締めとなりました。一旦散会のあと、女性は全員で別室の「お茶会」に移り、おしゃべり会をなさったそうです。男性有志は新宿「パイラスクラブ」で2次会となりました。

ここ数年続いている行事でしたが、昨年より参加人数が増えました。今年も好評だったと素直に考えています。また、次の機会に一同元気に会いたいと思います。



高4回生東京地区同期同好会 参集者24名
平成20年4月10日(木) 午後「レストラン立山」にて



花もダンゴも

亀山 知明 (高3回)

日本人は「春」うらかな季節には、いろいろと他の季節には無い特別なもの、そして品格を感じる。

豊臣秀吉が催した「醍醐の花見」で有名な醍醐のシダレザクラのクローン化に成功し、今年開花させたとか…バイオテクノロジーの進歩か？ 昨年夏に続いた猛暑の影響でこの季節、杉花粉だけでなく、桜の開花時期は？と、例年花見を楽しむ多くの人達から関心が寄せられたが、気象庁はいろいろとその予報に未だに苦心惨憺！！

そんなところ、**「松五会（第5回卒業生からなる会）」**の名幹事・金子鶴男氏が見事！本年最高（風も穏やか、寒さもなく花も見頃）の春爛漫の**「花見の日・4月4日」**を当てた。それも1ヶ月前に！

当日は参加者総勢20人、都心の日比谷にあるメンバーズクラブのフランス料理レストランで豪華な昼食を済ませ、代表幹事であり「東京・江戸散歩」の名案内人でもある雲村俊雄氏の先導でスタート。霞ヶ関→国会議事堂→憲政記念館→（江戸城内堀）→半蔵門→千鳥ヶ淵→靖国神社のコースを桃色に染まった空の下、多くの花見の人達と共にゆっくりと歩いた。見上げる私達の方を向いて咲いている桜は、物言わぬ木々からの密かな語りかけをも感じさせ、友人との春の一期一会を楽しむ我々それぞれの目にその風景を焼き付けてくれた。

卒業後、写真家として東京で活躍している木村寿一氏（高14回）は、堀の水面のあちらこちらに、花びらで出来た花筏の間を漕ぎ回る若いカップルのボートなどにカメラの焦点を合わせていた。きっと、いい作品が出来るのでは！



今回の場所は、さすがに上野、飛鳥山と違い、「どんちゃん騒ぎ」は見られなかったが、心ある地域のボランティアの人達による手入れと保存活動による見事な情景は、見物に来た私達を至福のひと時に招き、日本人の桜の花に対するDNAをヒシヒシと感ずるところでもあった。

しかし、最後の靖国神社では、気象庁の桜開花基準木となっている3本のソメイヨシノと共に、戦中、「お国の為に桜の花のように…」と、日本人の桜の美意識を戦争に利用された多くの桜が、木札（そこには、戦死した友人の隊名等が記入されていた）を下げて咲いているのに

は、心が痛んだ。

この後、「花もダンゴも」と欲深い有志一同は、四谷のクラブへと足を延ばし、「ダンゴ（お酒）」に舌鼓を打ちながら色々と話を弾ませた。

お互い、健康と幹事さんのお計らいに感謝し、又の再会を約して、今年の春の花見文化に浸った一日を終えた。

中学時代の思い出

渡辺 嘉樹 (高4回)

昭和二十一年四月、私は新潟県立村松中学校一年生になる事が出来ました。今までの小学校とは雰囲気が一変し、大人の世界に入った気分になりました。上級生は大人びて見え、中には軍隊から学生生活に戻った先輩も居て、もの凄く緊張して居ました。同級生はと言うと、皆利口そうな人達に見え授業も科目毎に先生が変わり色々な個性を持った方が居られ、余程しっかり勉強をしないと皆についていけないと感じましたが、頭脳というものは天性のものだと気付くまで時間は掛りませんでした。

その頃の世間とはという終戦の翌年でありその中は混乱の真っ最中で物価の上昇が激しく「金融緊急措置令」の発令により旧円預貯金の閉鎖等があり我家では家計も逼迫していました。一方で「村松大火」があり、授業を中断して跡片付けに行った記憶があります。この年の年頭に昭和天皇が「人間宣言」をし、その後日本全国を巡航され、九月頃だと思いますが村松中学校の我々も新津駅まで拝顔？に行きました。線路内に入って待つて居ると、いよいよ御召列車が前を通過する時、我々の指揮を執っていた先生が大声で「最敬礼～」と号令されたのです。折角人間天皇の姿が見られると思っていたのに、これは何だと思いましたが仕方なく頭を深くと下げました。でも、すぐに顔を上げて見てしまいました。自分だけだと思っていたら皆が同じ事をしていて、考えることは皆同じでした。

昭和二十二年四月に六・三制の新学制により小学校・中学校が発足し我々は併設中学生となり、三年間は後輩の居ない学生になりました。一方で私は、昭和十九年に父が海軍で戦死をし母子家庭になって居ましたので家計の事を考え、担任の富永先生に退学を申し出たのですが、先生が「これからは学歴社会になるから何とか学業を続けたら良いのでは」とアドバイスをして下さり、お陰で今日があります。高校を卒業し上京、東京消防庁に入り約四十年勤め、いろいろと勉強をさせて貰いました。退職後、都内の大学で四年間かけて国家資格の「救急救命士」を養成する学部が新設され、実習助手として手伝いに行きました。そこで五泉市内から来ていた学生に出会ったので村松高校の卒業生ではないかと思って尋ねたところ違い「松高ネェ～」と言われて仕舞ったのです。

あれ程優秀な人材を輩出した「村松高校」…元気を出して下さいとお祈りしています。



「23」

原田 實 (高4回)

一つ わたしは昔から、特段の理由も無く「23」という数字が好きだ。

二つ 現在、わたしは、平均年齢66.03歳というシニア・ソフトボールチームの一員である。

では、これより、この二点が結び付いた経緯をお話するとしよう。

そもそも、ソフトボールは、アメリカで生まれ室内でプレーする為にアレンジされたスポーツで、日本に伝えられたのは1921年(大正10年)、当時は「インドア・ベースボール」などと呼ばれていたのだそうだ。チームに加わって七年にもなろうかと云うのに、ついこの間、舟山健一という東北福祉女子ソフトボール部の監督さんが監修した技術解説本を手にするまで、私は全く知らずにいた。間抜けな話だ。

で、事は平成13年の夏に遡る。

いま住んでいる所の50所帯ほどの自治会が、毎年催す夕涼み会の場で、近所のT氏に、彼が所属するシニアのソフトボールチームに入らぬかと声を掛けられたのだ。

この球技を良く識らず、勝手に女の子のやるスポーツと勘違いしていた向きがあった所へ、シニアの…と聞いて反射的に「いゝですねえ」と口を迂らした。「年寄りがわいわい言いながらやってゝ楽しいよ。身体にもいいし、現にこの頃、高めだった血圧が下がったようなんだ」とT氏。つまみに上等なスルメを出されたようで、高楊枝でいられなくなって仕舞った。「悪くないなあ、考えておきますよ」と、わたしの口調はいつに無く滑らかだった。これ、全てアルコールの為せる業。素面なら、T氏も実績ゼロのわたし等に誘いをかける事はなかった、と断言してもよい。酒は玄妙な代物だ。だから禁酒は難しい。

数日して迎えに来られて、意外やT氏が本気だった事を思い知らされ、まごつくと同時に俄かに心配になった。八月一日ピーカンの朝であった。

近くのグラウンドに10人足らずの人が集まっていた。若そうに見える人はいたが、若い人はいない。僅かに薄らぐ不安。体操の後、グラウンド一周だという。日頃、散歩に少しさびを利かした程度でお茶を濁しながら、それで充分健康管理をしている積りだから、走るなど絶えて久しい。もともと陸上は苦手中の苦手だったのだ。不安を通り越して一挙に深刻な状況に陥った。日射しは容赦ない。恐る恐る最後尾につく。

果せるかな、バテバテで欲も得も無くベンチにへたり込んだ。酸欠の頭に、断ること以外の選択肢は欠片も浮ばない。腹を固めたその瞬間「今度入部したいと言う人を紹介するから、みんな集って」の声。泡を食らって立ちかゝるわたしの耳に「空いてる背番号は、何番と何番だったっけ」と情けの露も無い二の矢が。背番号？ 背番号=ユニホーム？ それって正装じゃない？ こりゃ本式だ。スパイクもだ。偉いことになった。逐電、亡命……。

そのときだ。「空いているのは『ニジュウサン』と…」

カ・ナ・シ・バ・リ

左様、金縛りにあった、としか申し上げようがない。一同の疎らな拍手に「よろしくお願いします」の声は上擦り、深く下げた額から乾き切ったグラウンドに、大粒の汗が続けざまに滴り落ちた。

ソフトボールに付いて、最初に引いた解説書に「野球と違い、技術が未熟でもプレーが成立しやすく、身体的な負担も少ないので、年配の人に人気がある。生涯スポーツとして長く楽しんでいただきたい」と、その魅力に触れている。多少の異論はあるが、楽しんで、という事に関しては否やはない。生涯の方は、天命との係わりでコメントし難いが、グラウンドに立つと、未だ暫くはやっていけそうな気がしてくる。なにせ、このスポーツ、シニアの上にハイシニアも存在するのだ。まあ、やれるところまでやってみるとしようか。無論、背の「23」と一緒に、ということである。



夏用ユニホームで、練習試合の後バーベキューで暑気払い、冷えたビールで一同ご機嫌！ 平成19年8月11日

小出博三氏の油絵展にて

今年も3月2日(日)～8日(土)までの間、小出氏(高8)の第10回油絵展が有楽町の東京交通会館B1(シルバーサロンA)にて開催されました。7日(金)の午後に雲村、金子、向山、深見、木村の各氏と連れ立って拝観して来ましたが、今回も来場者一同が、明るく素朴な印象と心地よさを感じとられたに違いありません。大勢の同窓の皆様にも是非、足を運んで戴き、ゆっくりとご鑑賞されますようにお勧めいたします。

今回で10回の節目を越えられ、次回も益々ご健勝で開催されますようご祈念致します。

広報 大橋 記



会場風景

〈回想〉

— 思い出も早や還暦をすぎて —

山田 (澤田) 幸子 (高4回)

次の世を 背負うべき身ぞ たくましく 正しくのびよ 里に移りて

昭和天皇皇后

(何分にも小学生の頃の記憶なので…)

昭和19年太平洋戦争が激しくなり主都圏の学校は閉鎖旧中学・女学生は学徒動員となり、私達小学生は次代の小国民を守る為とかで、地方へ学童疎開をさせられた。行く先は区によって定められ、中野区は長野県であった。諏訪湖より天竜川に添って下った駒ヶ岳のふもとの町へ。そこは何処を見ても切り立つ山また山、冬場ともなれば田圃に水を張りスケート場にするほどの厳しい環境で、繭を煮て糸をとる匂が町中に立ち込め、耳慣れぬ言葉に幼い胸は不安と心細さで張り裂けそうであった。

巻頭にあげた香淳皇后の御歌お披露目のあった日は、子供達に卵型のビスケットが御下賜され、それに併せてこの和歌に曲をつけたものが指導された。

今の天皇、皇后両陛下も同年代にて疎開学童の体験をお持ちになられる。戦争の為に年端も行かない吾子達を見知らぬ土地へ手放す親の辛い心は、如何ばかりであったろうかと、自分も児をもって痛くそのことを知った。それでも子供は子供なりに、親に心配をかけさせまいと「田舎の子と仲良くして、楽しく勉強をしている…」と週末になると手紙を書いた。(全て先生の検閲のもと)然し本当の所は夕暮時になるとアルプスの嶺に向かってあの山の彼方にふるさがある…と、幼い手を握り合い東京恋しさにいく度涙したことであろうか。

この間にも戦争は悪化し、翌20年3月10日(下町)、5月25日(山の手)が米軍の爆撃機B29の来襲により、一夜にして焼野原と化して、10数万人の命が奪われた。私の生まれた家も炎上し、焼死体が累々と続く中、父と長兄は炎を避けて逃げ惑い辛くも命拾いをしたけれど、近くの学校のプールに跳び込み煮上がって死んだ人達が居たと後で聞かされた。何と残酷な!!まさに地獄絵だ。これが当時の日本の主都・東京の生々しい姿であった。現在連日の新聞やテレビで、イラン・イラク、アフガンはた又中国チベットの暴動を目にする度に、60余年前の日本各地でもこれと同じ様な現実があった事を、私達は決して忘れてはならない。犠牲になった多くの霊に対し自分が今、生かされて在ることを自覚する日々である。

その後私は、東京へ帰れず長野から新潟へと再疎開、所が五泉が大火で焼け、町から少し離れた郷での生活を余儀なくされた。そこででの生活すべてが想像を絶するもので、土地の人との共生も驚きと苦しみの日々であった。雪とは上から降って来るものとばかり思っていたのが、足もとから舞い上がり、時には横殴りに吹きつけて来て目や鼻に張り付き息がつけないうさまじさに、唯必死に吹き飛ばされまいと立ちつくす自分が居た。鉛色の空に稲架木(はげぎ)に渡した竹が北風に吹かれうら悲しく

鳴る虎落笛(もがりぶえ)の音が、今も心に聞える。

然し季節が巡り、やがて雪解けの水を増した川辺にはねこ柳が赤い芽をつけ、銀色の穂を日一日とふくらませ蔭のトウも顔を出す。風はまだ冷たく感じるけど、光も強くなり待ち遠しかった北国の春が、これほど迄にいとおしく嬉しいものであったかと身をもって知った。春霞の中の白山の雄姿や、菅名岳の山肌を見つ感じたことは、大自然の力の偉大さであり、その前では人間がどう足掻いても始まらないことがある。又時を待つのがどんなに大切なことかを学んだ。然しこの美しい自然の中で、土地の人の中には他所者を疎外する気風がひどくある事も日々の共生で実感した。此処での貴重な体験は幼かった丈に純粹であり、後の私の人生に大きく影響し人格形成の礎となった。結婚後、長年にわたり携わった国際交流(外務省所管・社団法人)の仕事で言葉や肌の色の違う世界各国の人々と接する時、自分から歩み寄り異文化を理解する事で相手が心を開くさまを経験した。これも新潟での生活のお陰である。

緑濃き臥龍が丘に 轟くは我等が歓呼

若人の高鳴る血潮 たたえつゝ春の日廻る(好きだ!!)

私達が高3の時、学校は40周年を迎えて盛大な行事が举行され、記念講演に旧中1回卒の式場隆三郎医学博士(放浪の画伯・山下清の八幡学園園長)がみえられた。少年の頃学んだあの校舎に、スカートをはいた女性徒が歩いているとは想像出来なかつたと感慨深く申された。運動会には全校競技の仮装行列や、男女が共に輪を作り“おけさ”を踊る普段見られない姿に見物席は大歓声。文化祭には本格的な芝居が打たれた。私は音楽部なので合唱に参加したり、オペレッタ「シンデレラ」の創作に熱中した。又白いロングドレスにバレシューズを履きスーベニール(愛の思い出)を踊った。今思うとよくもマアと感心(寒心?)する。これが翌春東京の家へ帰り国立大を受験しようとする者か?と我ながらあきれた。

五泉から村松の女学校・高校へと通った蒲原鉄道は、雪が積もるとよく止まり、新道を歩かされた。雪の道が不慣れな者にとってそれは苦業の何ものでもなかつた。腰に手拭を下げマントに高下駄を鳴らしたバンカラ?の上級生は「女はクサイ後へ乗れ!!」とノタマウ恐ろしさ。当時陸上競技部の活躍が目覚しく、大会に出場する度に早朝の駅に呼び出され、応援歌で選手達を送り出した。声が小さい!!と先輩に怒鳴られ、スカートの脚を上げて拳を振り上げる姿は様にならず、限りなく恥しかった。その時一番嫌だったのはいつも駅員がニヤニヤしながら見物していたことで、今でも屈辱感が残る。

応援歌にまつわる思い出の中で忘れられないものは、同級生のK君の事である。国立大の体育系の学部を出て活躍していたが、「21世紀が見たい」との願いも叶わず急死した。娘がバスケットでお世話になっていた御縁で校歌と応援歌が入ったテープ(後輩のブラスバンド)を奥様からお許しを頂いて柩の中に納めた。今頃はきっとあの懐かしい臥龍が丘の空高く青春の思い出を紡ぎつつ応援歌を聴いていることであろう。ご冥福を祈る。



ポンペイ考

今井 敬彌 (高4回)

新潟に住んでいる家内の友人から年賀状が届き、文面には冬期でも夫婦で海外旅行に参加しています、とあった。正月、家内からその話を聞いて、北極圏のオーロラを見るならそうだろうと思ったが、どうも普通の観光らしい。そんなこともあるのかなと思って、はじめて海外旅行の新聞広告に眼を通すと、たしかにいくつかの旅行社の企画が一面に載っている。なるほど、冬でも割りと暖かそうな処を選択すればあるいは快適かもしれない。

私は前から、ポンペイの遺跡を見に行きたい希望があった。広告を探すとたしかにあった。かねて、我々の業務の世界で10数年来論争になっていた「司法改革」問題について、私なりの論述をまとめて出版したい願望がかなえられて一段落したあとでもあり、早速、夫婦で申し込んで、2月初旬、南イタリア、シチリア島の旅に出かけることにした。成田14時55分発のAZ-785に機乗し、ローマを経由して国内線に乗り継ぎ、ナポリ空港に23時頃に着き、専用バスに揺られてホテル着が24時に近い。すぐに入浴のあとベッドにもぐりこむ。

2日目の予定は、午前中カプリ島、午後がポンペイ遺跡となっている。専用バスは午後2時頃マリーナ門に近い検札所に着く。早速一行は街区に入り、急坂をゆっくり登りながら海の門マリーナ門の前に立つ。門をくぐる陸道は馬車用と歩道用に分離されている。通った右側にバシリカという裁判所や商取引の中心であった建物で28本のレンガ柱列の基底部分が掘りおこされている。左側にはアポロ神殿があり、アポロ神の銅像も残されている。歩道には敷石を敷いて古代の舗装道路といってもよい。少し歩けば公共広場であるフォーロに着く。かなり大きな広場(47m×161m)でここから北西方面には遺跡の柱や壁面の背後を通してヴェスビオ火山が望遠される。晴天で眺めは良好である。

ご承知のように、ポンペイは西暦79年8月24日午後1時頃約10Km離れたヴェスビオ火山の大噴火により一瞬にしてヘルクラネウム(参考図参照)と共に埋没させてしまったのである。当時、ローマ帝国から救援の話もあったらしいが、いつの間にか人々に忘れ去られ1700年間の長きにわたり眠り続けていた。その広さは東西に1200m、南北に650m余りで、今より、海が入りこんでおり、周囲に堅固な市壁をめぐらしている。街は10mから20mの軽石層におおわれたが、火山学者の研究によると、噴火は雲仙普賢岳のような火砕流を発生させ、この移動する上部に火砕流よりはるかに急速に移動する灰雲、即ち、渦巻きを殺到する爆風(サージ)を発生させ、これらを含めて熱雲がポンペイを襲ったのだという(金子史郎著「ポンペイの滅んだ日」2001年参照)。

一体、平和でのどかな生活を営んでいたと推察される

ポンペイにあって、西暦79年とはどのような年代であろうか。ポンペイは、ヴェスビオ山から流出した溶岩台地の東南端に位置し、南側はサルノ川に向かって断崖となり、西側も海岸に対し急斜面となっている。後背にはカンパニア平原が広がり、BC10、9世紀頃からイタリア原住民の一派であるオスキ人が住んでいた。BC725年頃になると、ギリシャ人がクマエ(参考図参照)に植民市を建設し、又、サルノ川の後背地に住むエトルスキ人がBC6世紀頃進出してき、南イタリアのアペニン山脈の山間部に住むサムニウム人がBC400年代この平原に進出してクマエを占領し、ポンペイも占領したが彼等は山に帰ることなく都市文明を受け継ぎ商工活動を続けた。ローマの建国は、ギボンのローマ帝国衰亡史をひもどくまでもなく、BC753年とされている。ロムルス以来7人の王が244年間王制を務めたあとのBC5世紀頃、ローマは元老院と選挙により選ばれる2人の執政官(CONSUL)制度という共和制に移行し、これが500年の長きにわたったことは見逃されるべきではない。そうして、BC31年アウグストゥスが皇帝に就いて以来ローマ帝制が始まるのである。都市国家ローマは次第に力をつけ、BC298~290年の3回目のサムニウム戦争でポンペイはローマの軍門に下ったとされる。BC91~88年の同盟市戦争では、ポンペイは同盟市側に加わりローマに反抗したが敗れている。ローマはポンペイを植民市とし、自治を許し、公用語をラテン語とし、市参事会や2人の執政官、2人の造営官等を選挙で選ぶこととしたようである(浅香正「古代ローマ都市の蘇生」1995年参照)。

さてこの時代とえば日本列島はどうであったであろうか。魏志倭人伝で列島に倭国の大乱があり、邪馬台国の女王卑弥呼が魏に朝貢したという文書はAD239年のことであった。そこから邪馬台国論争、即ち、近畿説と九州説が提起され、それは今でも歴史学会を賑わせている。倭人伝によれば、3世紀の倭国には屋室があり父母兄弟は寝処を異にし(弥生時代中期の遺跡では堅穴の上に草や樹皮をおおったもの)温暖で冬でも野菜を食べ、シカやイノシシの肉を手づかみで食べ、はだしであるという。倭国はその頃話し言葉はあっても記述する文字をもっていなかった。

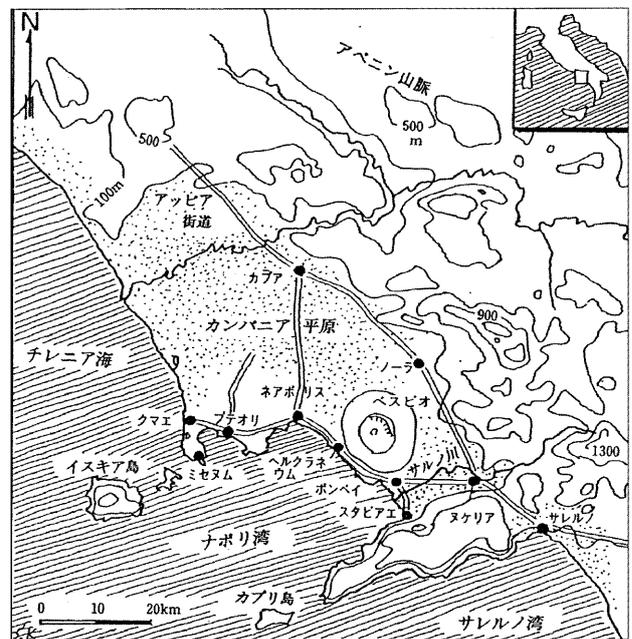
ポンペイ遺跡を観るには、この程度の時代背景を頭に入れるとより深い理解が得られると思う。幸い、現地通訳してくれたのは、若いマリア・ローサ女史で日本に留学したこともあるといい、流暢な日本語で解説してくれた。現在、街は5分の4発掘されているという。フォーロの南側には2人執政官事務所や市参事会議事堂や造営官役所跡がある。これらはローマの共和制に従い、すべて選挙によって選任され、無給制であったというから驚きである。フォーロを通りマケルム(市場)に入る。当時、どの程度の人口があったかは論争があるが、6000人から2万人程度といわれる。市場は、これら人口にふさ



わしい広さを持っている。壁画や落書きそしてガラスの箱に入った人の石膏像が痛ましい。1860年フィオレリ博士が四体の人間の形をした空洞を見つけ、これに溶かした石膏を流しこんで固定してから掘り出す技術を作り出したのだという。鋳型は人の表情から着衣の皺、ヘアスタイルまで保存されているという。このような石膏像は既に数百体以上作製されているという。次にフォルム公衆浴場に案内される。そこには脱衣場と温浴、冷浴、熱浴（サウナ）の各室を備え、料金も安く一種の社交の場としての意味もあったらしい。次はパン焼釜の家である。ここにはパン焼釜から粉ひき機まですべて掘り出されている。道路は馬車道と一段高く歩道があり、車道には轍のあとがくぼみになっているのがわかり、車道際に馬の手綱を通す穴もそなわっており、アツポンダンツ一通と交錯する十字路には、横断する歩行者用の大きな石が3個置かれている。上水道用の鉛製のチューブが露出しているのも見られたが、下水道が完備していたかについては争いがある。完備説を説く学者もいるが、排水は傾斜のある道路を利用して下水管に集められ城外へ排出され、トイレの汚物は道路下に作られた深い汚水溜に排出されたといい、これを結びつける証拠も見つかったという。道路にはいくつかの公衆用の水呑場がつくられており、市内の1日の水の供給量は648万ℓ（142万5430ガロン）にもなるという（R・リング著堀賀貴訳「ポンペイの歴史と社会」2007年参照）。しかし、この水源がどこであったかは未だ不詳であるという。街の角にはワインなどを貯めておくため石造りの台にいくつもの壺がはめこまれて並んでおり、居酒屋であるという。次は大きな男根を刻んだ家の前に案内され、娼婦の館だという。相手は戦争に負けて奴隷になった女性である。このような家が19見付かっている。ポンペイ生活の悲しい一面である。エルコラーノ門の近くに外科医の家があり、いろいろな外科器具が出土しているというので観たかったが、秘儀荘に行くので素通りとなったのは残念である。ここは城外を出て墓地の道を通って行くが、ヴィラ（別荘）とも言われるが、地下にブドウ圧搾器が備えつけられ、忠実な働き手（奴隷）18人が死亡しているのを見れば単なる別荘ではない。この広大な邸宅が有名なのは、食堂の壁に帯状に部屋中を巡る大きな壁画が発見されたことである。ポンペイレッドといわれる独特の赤面がバックにあり2000年を経た今日でも美しい。しかし、この壁画が何を画いたものかに就いては見解が分かれている。ディオニュソスが入信のための儀式を神秘的に行ったものだという説があるが、ローザ女史は、少年がパピルスに書かれた聖なる儀式の手続きを読んだあと男性を知らない女性が恐怖にとりつかれていると、ヴェスビオに住む酒の神バッカスから授った葡萄酒を飲まされて気がふくよかになり、男性そのものも知って踊り出して結婚することになる、と解説してくれた。ポンペイの街の壁には落書きが多いことは前述した。選挙

により執政官2人を選ぶことから、「誰々を推せんする」という落書きも多い。又、時間の関係で観れなかったが、商人ヴェッティの家も訪れたかった。中央広間に入る扉の右脇の壁に、豊饒の神プリアポスが男根とお金の袋を秤にかけている絵がある。別の邸宅内でも愛の壁画が画かれている。娼婦の館の部屋には、今では猥褻とも考えられる男女交接の絵が掛けられていたりしたという。そうして、単刀直入に「来た、やった、帰った。」という落書きもあったという。ほかならめ謹厳な学者も「優雅でみだらなポンペイ」をあらわしている（木村凌二著2004年参照）。公職の任期は1年、それで春には毎年選挙が行われる。落書きにはこの推せん文が多かったようだ。例えば、「エビディウス＝サビヌスを裁判権を有する二人委員としてあなた方が選出するように勧める。庇護民トレゼウスは神聖なる参事会の同意とともに彼を選ぶ」等。そして落書きにはラテン語だけでなくギリシャ語で書かれたものも散見され、古代ローマの読み書き能力はかなり高かったといわれているのである。2000年前のポンペイでは、奴隷制度はあったものの、実際、人々は豊かな生活を楽しみ、選挙によって自治都市の執政官を選んでいたのである。第二次世界大戦が終わり、旧ソ連の後押しを受けて建国したとされるどこかの国が、ニューヨーク・フィルの公演で終了時、観客は拍手すべきか否か戸惑っていたという。鑑賞の仕方まで統制されていたのかと新聞記者は報ずる（3月9日朝日新聞）。1人の独裁者に頼るのでなく、少しは古代ポンペイ市民の生き方を真似た方がよい。僅か1時間30分の限られた観光ではあったが、再度、訪伊しポンペイ全体を足で歩いて遺された遺跡から数々の知見を得たいと願ったことだった。

追記 本稿は鈴木会長からのたつての要請で記述したもので、予期せぬ誤りがあることを畏れている。



ポンペイとその周辺図（ネアポリスは今のナポリ）



魚・肴・さかな

加藤 清治 (高4回)

世界的な日本食ブームが言われて久しい。このブームは日本食への美味礼賛に加えて日本人の長寿と、経済グローバル化も大いに関係していると思われる。外国人が好む日本食品として寿司、天麩羅、鰻焼き、逆に敬遠されるものとして納豆、塩辛、沢庵などが話題にされる。この二つの食品グループから次の事が見えてくる。外人好みの第一グループの食品は見た目には美しいが日本食品としての歴史は浅い事である。因みに握り寿司は文政年間に江戸両国で花屋を営む与兵衛によって考案されたと伝えられているが、文政元年から数えても二百年に満たない。天麩羅、鰻焼きに付いてはそのネーミング、仏教思想の影響を強く受けた庶民の食習慣を考えれば古くからあった日本の伝統食品とは考え難い。それに対して外国人に好まれない第二グループの食品は見た目は冴えないが第一グループの食品よりずっと古い時代に考案され、長い間各家庭で育てられて来た我が国の伝統食品である。この第二グループの食品群は日本が世界に誇る発酵法を用い、毎日食べても飽きがこない。

雪国、秋田の「ガッコ」西の「京漬物」等は全国的にも良く知られている。

発酵食品には独特の匂いを発するものが多く、その匂いは人により芳香とも悪臭ともとれるがヤミツキになる人が多いのも発酵食品の不思議なところである。

表題の魚と肴について言及すれば、全てが食べ物と決め付けている人は居ないと思うがこれから話を進める「さかな」は全て食物で、酒の友として又副食やスナックとしても珍重されているものであるから乞御安心。

唐突ですが「ムスヲ サガナニ イッペ ヤッカ」と誘われたら、貴方なら一丁乗ってみようか？それともやはりおりますか？如何にもゲテモノ食いのように聞えるが、人類は魚や動物の肉と同様虫を栄養源として食べて来た。アジア各地でも虫を食べて来たが中でもインドシナ半島のラオスが有名で、人が集まる市場、渡船場、人通りの多い道端などでも虫屋が店を出している。きれいに串刺しにしたもの、調味料や香草と一緒に油で揚げたもの等を小皿に盛り付け板の上に並べて売っている。虫を食べたい人はラオスまで行かなくても国産物が身近で手に入る。例えば長野県のカイコ（さなぎ）、ザザムシ、ハチの子、また郷土のイナゴ（イナゴ科 イナゴ属のバッタの総称）等がある。

さかなの話が虫で終わったのでは何とも締まりが無いので、最後は正真正銘の魚に登場してもらおう。その名は「ウルメ」一般的にウルメと云えば間目鰯（ウルメイワシ）を指すが新潟では何故かメダカ（メダカ科の淡水硬骨魚）をそう呼ぶ。調理法は釜茹でシラスのように一度熱湯を通した後佃煮風に味付けするのが一般的である。この魚を食べる話を県外人にしてもなかなか信じてくれない。私は県外人でウルメを食べた経験者に会った事がない。「ウソー ホントー ソンナン シンジラレ〜ン」と云う結果になること請合いである。

鮭の町 村上

中村 俊枝 (高16回)

4月中旬、還暦の旅行にこちらの同級生4人で未だ肌寒い新潟駅に到着しました。そこで村松高校の同級生と合流し、レンタカーで村上へと出発しました。村上には父の故郷で私にはもう一つの故郷です。

村上には雅子妃殿下のご先祖小和田家と深い関係があり雅子妃殿下は、ご成婚前まで村上市本町が本籍だったそうです。村上には戦前まで小学校・中学校が町民と士族に分れていました。鮭は村上藩の重要な財源で、士族の子弟は、その財源によって創設された奨学金で学んでいました。父もその恩恵を受けた一人で、「鮭の子」と呼ばれていたそうです。

昔から鮭は村上の人々に恩恵をもたらしていました。最近よくテレビや雑誌で村上の鮭が紹介されています。今回の旅行もそんな事で実現しました。村上に着いて最初に町が一望できる城山に登りましたが、昔15万石の名残もなく、今は頂上に石垣が僅かに残っているだけです。三面川や遠くに日本海も望め、息を切らして登った苦労が報われる思いでした。三面川沿いにあるイヨボヤ会館も、鮭に関するいろいろなことが展示され興味深いものでした。イヨボヤとは魚の中の魚を意味しているようで、村上では鮭をイヨボヤと呼んでいます。昼食は昭和4年頃建て替えられた割烹「吉源」の趣のある部屋で頂きました。季節外れと云うことで鮭は酒浸し（塩引き鮭を薄くそいで酒と味噌に浸したもの）のみでしたが、鮭の季節になれば鮭づくしの料理が食べられます。



吉川（きっかわ）の塩引き鮭

食後は風情のある店構えの吉川に行き、店の奥の天井から吊り下げられた塩引き鮭に圧倒されました。部屋は昔のまま、細長くウナギの寝床のような造りです。

3月には「雛祭り」、9月には「屏風祭り」が開催され、大切に保存されて来た屏風等が展示されたり、町屋の人々が語り部として村上の歴史を話してくれるそうです。

又、町屋の外観を風情ある姿に再生するプロジェクトも出来ているとのことでした。

今度は、鮭が村上の家々の軒下に下がり、鮭づくし料理が食べられる頃に来たいものだと思います。



湯河原梅林

新保 優 (高10回)

関東の西部には、熱海、曾我(小田原)、修善寺など、古くからの有名な梅林があるが、最近湯河原梅林の名をよく目にするようになったので、どんな所かを見に、2月の末に車でやってきた。

当日は車を使ったが、シーズン中には湯河原駅から梅林までの直通バスが出ていた。



伊豆半島の背骨にあたる山々が、箱根と繋がるあたりの東側に、幕山(まくやま)というピークがある。湯河原梅林はその麓の、南向きの斜面に広がっていた。

ここは湯河原市街の北東を流れる、新崎川の支流に当たる。元々はこの川の治水事業に合わせて、公園として開発されたものだろう。だから地図には幕山公園という名で出ている。

梅林には駐車場が3箇所あった。金曜日の朝の10時頃であったが、すでに公園に一番近い、第一駐車場はいっぱいであった。

そこからは舗装道路をすこし歩くと公園に入る。ちょうど梅祭りの期間だったので、道の脇には地元の野菜や果物などを売る店が出ていた。

駐車場は普段は無料だそうだが、梅のシーズンには500円必要であった。また、観梅料として200円取られた。地方の公園での入場料はあまり聞かないが、維持管理を思えば、この位はやむを得ないのであろう。



幕山とその麓の梅林

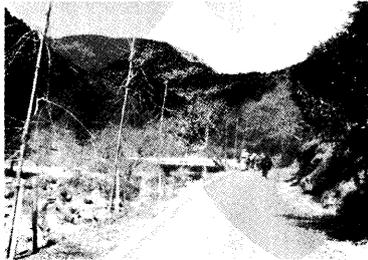
公園に入るとすぐに、大きな材木で出来たベンチとテーブルのある広場に着く。この広場からは幕山と梅林が一望できる。

幕山はやさしい稜線と、露出した荒々しい岩肌を持つ印象的な山である。この山の自然林と岩壁が、麓の梅林や公園の植樹とうまく調和して、他にはない迫力と魅力のある景色を作っていた。快晴に恵まれたため、日に照らされた早春の山肌と、梅の花の白や薄赤が青空に映えて、すばらしい眺めであった。

やはりシーズンとあって、広場の周りにはテント張りの売店が並び、いろいろな食べ物や土産品を売っていた。風が冷たかったので、味噌汁がありがたかった。

大きな石がごろごろしている谷川に沿って、きれいに舗装された遊歩道が、広場から公園の奥まで続き、車椅子でも十分に観梅と散策を楽しめるように配慮されていた。実際に、車椅子の人も多かった。

公園はずいぶん広くて、この遊歩道だけでも結構歩きである。一番奥にある、桜の植えられた小さな広場に到着まで10分以上かかった。その先は幕山や伊豆の山々へのハイキングコースにつながっている。歩いている途中で頻りに、登山姿の人たちに行き会った。



公園の奥の桜並木

広場の付近や遊歩道の脇は庭園風に整備され、梅や桜、椿などの花木が植えられていた。また道の途中には小さな池も作られていた。しかし少しはずれると、そこは雑木林のままであり、梅林や公園の中

にも立木が自然のままに残っていた。

斜面に広がる梅林には、約3千本の梅が植えてあり、さらに毎年数百本の単位で増やしているそうである。

梅林の中には縦横に遊歩道が作ってある。やはり車椅子への配慮があり、道幅が充分に取ってあって、階段はほとんど見かけなかった。

木の下には芝生もあり、ベンチもおいてあるので、休んで弁当を広げたくなる環境である。水仙などの草花も其処ここに植えられていた。

しかし広い上に、進化の途上にある公園のため、登山道そのものの荒れた道もあり、すすきや蕨がはびこって、下草刈りの終えた植林地のようなところもあった。



梅林の中の散策

若い木が多いためか、花の少ない木が目についた。庭園型の梅林に慣れた私には少し物足りなかったが、結構きつい斜面の登り降りもある梅林であり、ハイキングのような面白さがあった。あと20数年経てば、ここは見ごたえのある、素晴らしい梅林になるだろうと思う。



日本百名山巡り

阿部 勇 (高9回・仙台在住)

この度、石黒氏より原稿の依頼を受け、仙台から何が出来るか模索していました。結局、ある程度の継続性を考えて題記のように致しました。

さて、「仙台山楽会」に所属し、55歳から日本百名山に挑戦を始め、年に3～4座のペースで今日まで47座登頂しました。このペースでは後15年余を要し、85歳を過ぎる計算になりますが、百座達成を生涯の目標として努力しております。また、登山はあくまで自己責任ですから計画・装備・体力(体調)の3点を入念に行う事が責務であり重要になります。この中でも体力作りは年間を通して日々の積重ねが必要となりますが、私は毎朝5時から6時半頃まで7km程度のトレッキングを続けています。何やら自己紹介が長くなってしまいました。

今回は、平成18年7月15日から3泊4日をかけて新潟県と近県に跨る火打山と妙高山の山行き報告をさせていただきます。

早朝、仙台から新幹線にて大宮・高崎・長野と乗り継ぎ、JR在来線で妙高高原駅に到着する。ここからバスに乗り、火打山の登山口である笹ヶ峰で1泊。



2日目の早朝6時、雨の中を先ず火打山にアタック。この年は例年より積雪が多く、登山道は大雪渓が続く。高谷池ヒュッテで小休憩をとり、天狗の庭を經過、6時間かけて頂上を制覇する。ここで昼食を摂ってから2日目の宿である黒沢ヒュッテ(ドーム3階建て60名収容)に向う。登山道には高山植物のキヌガサソウ・コバイケイソウ・ゴゼンタチバナ・ハクサンチドリ・シラネアオイなどが乱舞。15時に黒沢ヒュッテに到着するも千葉県の団体が先着していて受付が混雑し、寝場所に案内されたのは16時過ぎだった。深夜、雨足が強くなり何度となく目を覚ました。

山小屋の朝は早く、朝4時には朝食が始まる。生憎の雨であるが、食後に装備を着けて6時に出発、いよいよ妙高山に挑戦開始。大倉乗越、長助池分岐と凍結の雪渓を3点確保で5時間を要して北峰、そして念願の頂上南峰に到達。そこで横浜からの団体と出会い一緒に昼食。

下山は、燕登山道をとる。いきなり鎖場、ハシゴ場の連続で光善寺池、天狗平まで難所続きであった。天狗平

の分岐で標識があり、燕温泉を目指す。称名滝、北地獄谷を經由し3日目の宿、燕温泉「花文旅館」へ15時に到着した。最終日の4日目は、花文旅館店主により赤倉温泉経由で妙高高原駅まで送って頂き、長野から新幹線を乗り継いで16時に無事仙台駅に到着した。

今回、3泊4日の登山全日程は雨のため展望は皆無であった。帰路、花文旅館店主の好意で50有余年前に五泉中学校での修学旅行で宿泊した「赤倉ホテル」に立ち寄って頂き、当時の出来事が懐かしく思い出された。



ハクサンチドリ



イワカガミ



キヌガサソウ

趣味(卓球)

徳永 道子 (高12回)

私が今の相模原市に越して来たのは、現在36歳になる双児の息子達が小学校2年生の時である。その小学校のPTAに卓球の同好会が発足した時、中学、高校と卓球部に所属していた私は、早速、入会することにした。その後、同好会の有志で新しいチームを作り、市の家庭婦人卓球連盟に所属し、早や30年になる。

発足当時、大方の人は子育てと仕事に追われながら、又、数人の人は2～3歳位の小さな子供を連れての練習だったが、みんな苦勞しながら時間をやり繰りしていた。途中入会の人もあるが、殆どは最前からのメンバーである。30年も変ることなく、皆なでやって来られたのはなんだろう?と、よく考える。昔、頃は、一つの目標に向かって練習に励み、勝つ事だけを考えていたように思う。だんだん歳を重ね、メンバーの人達も「腰が痛い」とか「五十肩で腕が上がらない」とか云いながらも、夫々がお互いを思いやり、カバーして頑張ってきたからこそ、今日まで続けて来れたのだと思う。

最初からの人は、殆ど60代になつていつまで、やれるのかなあ?」などと云う声も聞かれるが、みんなまだまだ若く? 元気である!!

今、うちのチームは水、土、日曜の週3回の練習と、年に10回位の試合にチャレンジしている。私は、仕事があるので、週1～2回の練習と年5～6回の試合に留まっている。歳をとってから週1～2回の練習では、ちっとも進歩せず、情けない思いをする事がよくある。しかし、無理をせずにチームの和を大切にして、健康のためにいつまでも頑張っていこうと思っている。

第9回親睦ゴルフ会開催

平成20年4月3日、入間カントリー倶楽部に於いて松高東京同窓会の第9回ゴルフコンペが開催された。

当日は絶好のゴルフ日和となり、桜をバックに恒例の記念撮影をして、午前8時28分に1組目がスタート。いつもながら桜を観ながらのプレーは気分爽快であった。

今回も参加者が少ない中、久しぶりに五泉在住の間藤（高9回）さんが出席され、高21回生の佐藤克さんと二人でドラコン・ニアピンの争奪戦となった。ゲーム終了後、入賞者のハンデキャップが改正された結果、3位の佐藤さんが優勝された間藤さんと共にシングルプレーヤーとなった。また、片柳さんが女子の意地をみせて準優勝されたのは立派である。

今回もまた亀山氏、吉井氏のお二人には何かとお世話になった。心より感謝と御礼を申し上げたい。



訃報

廣田 達衛氏（高5回）

平成20年1月10日にご逝去されました。氏は、長年にわたり東京同窓会の幹事として、会の発展に多大な貢献をされてきました。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

第9回ゴルフコンペ

成績（敬称略）

優勝・間藤謙一、準優勝・片柳ムツ、3位・佐藤 克
参加者名（順不同・敬称略）

- 1組 間藤謙一（高8）大橋貞夫（高10）佐藤 克（高21）
2組 亀山知明（高3）瀬倉武志（高3）吉井 清（高8）
3組 鈴木輝雄（高8）鈴木理恵子 片柳ムツ（高8）

第10回親睦ゴルフ会のお知らせ

平成20年10月2日（木）、入間カントリー倶楽部に於いて第10回親睦ゴルフ会を開催いたします。

10回からシングルプレーヤーが二人になりますが、何も恐れることはありません。それぞれ正当なハンデが与えられますのでご安心下さい。老若男女を問わず大勢の方々在意地と名誉をかけてご参加いただき、各賞に奮って挑戦して頂きたいものと念願して居ります。

腕に覚えがあっても無くとも挑戦しようと決意された方は下記までご連絡下さい。

吉井 清（高8回）Tel & Fax 042-527-6482
亀山 知明（高3回）Tel 042-572-5096

編集後記

我が国の食糧自給率は39%だと云うが最近、バターや野菜類などいろいろな食糧が不足し始めて来た。いままで牛乳は過剰だからと捨てたり、豊作だからとキャベツをトラクターで踏み潰したりして来た。

ここに来て、農林水産省はバターの増産や輸入枠の前倒しで対処しようとしている。牛乳の減産を進めてきたのに事情が変わったからと急に増産を指示しても相手は生き物である。急に乳の産る乳牛が現れたり増えたりする訳はない。

しかも、各種原材料と共に値上げラッシュが始まっている。又一連の騒動の後、ガソリンが過去最高になったが、裏には投機マネーが絡んでいるようだ。

衛星から見ればあんなに青く美しい星の中で黒い金を動かし、無駄な破壊を繰返している愚かな生物が地球を破壊へと導いているように見える。そろそろ人類も地に足をつけ、無駄を廃して真理を追求するときではあるまいか。

◎会員諸氏のお考え、ニュース、ご趣味などの原稿をお待ちしております。

広報委員会・大橋

原稿送付先

〒158 0094

世田谷区玉川四一二十八

大橋 貞夫 宛

E-mail sadoro@gb4.so-net.ne.jp

平成20年6月 第45号

表紙の題名・題字は佐伯益一氏（旧中27）書

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

東京同窓会事務局 〒201-0005 狛江市岩戸南2-14-14

電話・FAX 番号 03-3488-2117（石黒四郎）



校 歌		
旧・県立村松中学校	旧・村松高等女学校	県立村松高等学校
浮田 辰平 作詞 曲は 旧軍歌より	相馬 御風 作詞 大和田愛羅 作曲	相馬 御風 作詞 中山 晋平 作曲
1. 塵の巻を遠ざけて 雲たちまよふ白山の 麓に立てる松の群 見よ凌霄の気を含む 3. 落葉をくぐる流にも 岩石砕く力あり 清きは水の姿にて 強きは誰が心ぞや 5. 夫れ英雄も人傑も 人の子吾等が類なり あゝ松城の健男児 奮ひて起つべし諸共に あゝ松城の健男児 勇みて起つべし諸共に	1. 愛宕の山のむら松の みどりの色の常盤なる 操を胸に日の本の をみなの徳を磨かばや 2. 心は身はも真夏なほ 日に輝ける白山の 雪にもまさる清さもて 正しき道を進まばや 3. その名も高きこの里の 桜の花のうらうらと のぼる朝日に匂ふごと 気高き姿保たばや	1. 普く照らす天つ日の 光を浴びて年々に 伸びてしやまぬ若松の ときわの志操いや堅き 学徒われらの在るところ 明朗の和気みなぎれり 2. 見よ質実に清純に 進取の生气湧き溢れ 文化の花の咲くところ 希望は常に輝ける 道に我らを進ましむ 努めなんいざもろともに
第一応援歌	第二応援歌	第三応援歌
1. 緑濃き臥龍が丘に 轟くは我等が歓呼 若人の高鳴る血潮 たたえつゝ春の日廻る 2. いざ叫べ若人の誇り わななける力の腕 見よや君歡喜の胸に 輝くは永久の勝利	1. 臥龍原頭幾星霜 切磋琢磨の功を経て 花紅の香に匂ふ 誉れは高き松城の 健児が胸に血や躍る 2. 我等がえらぶ丈夫の 誉れは海の湧くがごと 望みは雲の行くがごと 月の桂をな譲りそ 栄ある名をぞとこしへに	1. 松城健児六百が 祖国の為に剛健の 大図をここに定めんと 送りいだせし我が勇士 覇権を護ること勿れ 我等六百ここに在り 3. 今壯快の晴戦 見よ雄叫びの只中に 我等が望み一筋に 肩にぞかかる勇戦士 覇権を護ること勿れ 我等六百ここに在り